

読者のひろば

航空遺産保護 地域で生かす

高谷和生 59 公務員
(玉名市)

八代妙見祭の笠鉦「西王母」の台車の車輪に使用されていた大戦中の小型軍用機のタイヤが、通町保存会から八代市立博物館に寄託され、地元に残されることとなった。

私も車輪を笑見し、旧文政村(現八代市)にあった陸軍八代飛行場に降した復員海軍機か、旧山陽航機八代工場の関連資料と判断した。県内では玉名(大浜)飛行場の陸軍四式基本練習機「ユングマン」タイヤに次いで2例目の確認となる

が、さらに資料の詳細な調査の必要性を感じた。

八代には民間パイロットの先駆者で、1923(大正12)年、球磨号で殉職した嶋田武男氏ゆかりの品々が生家である日奈久の鏡屋旅館に残されている。また、白戸式練習機と想定される木製プロペラも、嶋田氏の母校である日奈久小に保管されている。さらに、山陽航機で生産した海軍艦上攻撃機「流星」の風防も完形で遺存している。八代地域と、日本での初飛行に成功した日野熊蔵氏

が生まれた人吉地域は、「火の国のイカロスたちの聖地」ともいえる。
20世紀は「航空の世紀」

である。航空機が多方面にこの時代の文化に大きく影響したことから、日本航空協会を中心に航空遺産の保護が進められている。地域に残されているこれらの文化財を、子どもたちのために平和学習や歴史学習、航空技術史の学び等での活用を図っていただきたい。

「読者のひろば」への一般投稿、若者コーナーは450字程度、主張・提言は600字程度。◇欄外に郵便番号、住所(アパート・マンション名も)、氏名、年齢、職業(無職の方は元職でも可)、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すことあります◇原稿は返却しません。二重投

投稿される方へ

稿、採否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。あて先は①郵送 〒860-8506、熊本市中央区世安町172、熊日「読者のひろば」係
②ファクス 096(363)1268
③Eメール hiroba@kumanichi.co.jp